

異国情緒たっぷりに舞う特異な踊り

唐子踊(疫神社)



指定区分	県指定重要無形民俗文化財
読みかた	からこおどり(えきじんじゃ)
所在地	瀬戸内市牛窓町紺浦(疫神社)
指定年月日	昭和35年8月23日
解説	紺浦神社の素盞鳴神社(通称疫神社)の秋祭り(10月第4日曜日)に奉納される踊り。異国風の衣装をまとった男の子二人が若者の肩に乗って神社を参拝し、境内で小太鼓、横笛、歌にあわせて踊りを舞う。歌の歌詞は意味不明なものもあるが、衣装、踊りは独特のものであり、江戸時代に牛窓港に寄港した朝鮮通信使との関係がしのばれる。
アクセス方法	西大寺バスセンターから牛窓線乗車「紺浦西」下車
公開状況	開催日:10月の第4日曜日「牛窓秋祭り」
設備	
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要無形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	唐子踊(疫神社)
よみかた	からこおどり(えきじんじゃ)
しょざいち (所在地)	瀬戸内市牛窓町紺浦(疫神社)
していたひ (指定した日)	昭和35年8月23日
せつめい	異国風(いこくふう)の衣装(いしょう)を着(き)た男の子二人が、太鼓(たいこ)・笛(ふえ)や歌(うた)にあわせて見なれない踊(おど)りを舞(ま)います。牛窓(うしまど)の秋(あき)まつりのときに疫神社(やくじんじゃ)で行われます。江戸時代(えどじだい)の牛窓は朝鮮(ちょうせん)からの使者(ししや)が立ち寄(よ)る港町(みなとまち)の一つであり、この踊りは朝鮮の影響(えいきょう)が強(つよ)いのではと言われています。